

平成 26 年 4 月 3 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブマネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

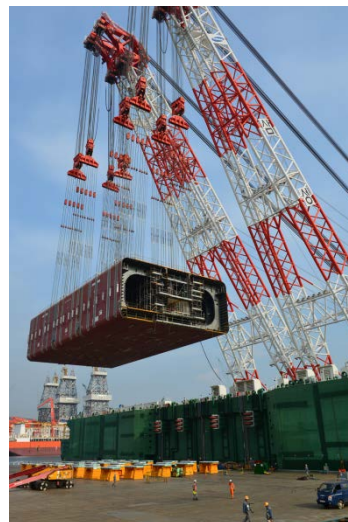
オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
世界最大の半潜水式海上生産施設「沖合生産・処理施設 (CPF)」
の組み立て開始について

国際石油開発帝石株式会社 (以下、当社) は、オーストラリアで操業主体 (オペレーター) としてプロジェクトパートナーとともにイクシス LNG プロジェクト (以下、本プロジェクト) の開発作業を進めております。本プロジェクトの主要施設の一つであり世界最大の半潜水式海上生産施設「沖合生産・処理施設 (以下 CPF: Central Processing Facility)」については、2013 年 1 月より建造・建設に着手しておりますが、昨日、CPF の本格的な組み立て作業を建造地の韓国ゴジェにて開始しましたので、お知らせいたします。

今般の CPF の本格的な組み立て作業の開始は、本プロジェクト推進における全体スケジュールに沿うものであり、本年 2 月に船体の本格的な組み立て作業を開始した沖合生産・貯油出荷施設 (FPSO) の他、本プロジェクトを構成するその他の大型主要施設である陸上ガス液化プラント (LNG プラント) やガス輸送パイプライン等の建造・建設についても順調に作業を進めております。



関係者によるテープカット



ハルブロック

この CPF は、日量最大 1,657MMscf のガスの処理が可能で、大きさが約 150 メートル×約 110 メートル、総排水量は 14 万トンであり、半潜水式の海上生産施設としては世界最大の規模です。この CPF は、イクシスガス・コンデンセート田から産出された生産物を、ガスとコンデンセート等に分離する処理等を行う施設であり、本プロジェクトを支える中枢施設の一つとして機能します。CPF にて分離されたガスは、総延長約 889 キロメートルのガス輸送パイプラインによりオース

国際石油開発帝石株式会社 INPEX CORPORATION

トラリア北部準州のダーウィンに現在建設中の陸上ガス液化プラントに輸送され、液化等されたのち、LNG（液化天然ガス）、LPG（液化石油ガス）等として出荷されます。

この CPF の建造作業は、韓国ゴジェにあるドライドックで進められ、その後進水を行い、現在世界各地で製造を行っている主要機器が CPF に上載機器として据え付けられます。2015 年中に CPF の建造作業を終え、韓国ゴジェからオーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田まで約 6,000 キロメートルの距離を曳航し、水深約 250 メートルの洋上に設置・係留されます。

当社は、今後も、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府および北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上



沖合生産施設完成イメージ



沖合生産・処理施設(CPF : Central Processing Facility)
完成イメージ

イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター）としてトータル社、東京ガス、大阪ガス、中部電力および東邦ガスとともに、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設するガス液化プラントにて液化し、年間840万トンのLNG（液化天然ガス）および年間160万トンのLPG（液化石油ガス）として生産・出荷するとともに、FPSO等から日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期に渡っての稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。

当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。現在、2016年末までに生産を開始すべく順次開発作業を実施中です。

特設サイト - イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトの詳細は、特設サイトにてご確認ください：

<http://www.inpex.co.jp/ichthys/index.html>